地域交通の未来

柔軟な助け合いの移動支援を

助け合い移動支援を検討中

水野（みずの） 佐知（さち） 議員

問 「くじらん」運行1年半の利用状況と、四万十市方面への乗り継ぎ改善に向けたダイヤ見直しのスケジュールはどうか。

また、バス停までの移動のしづらさや利用できていない住民の声に応える柔軟な支援策はあるか。

答 **村越 企画調整室長**

「くじらん」は登録者362人、1日平均12・7人が利用し、鉄道等との乗り継ぎで対応しているが、待ち時間等の課題は認識しておりダイヤ改善に最善を尽くす。

また、フリー乗降や自宅近くでの乗降を実施しているほか、今後はあったかふれあいセンターによる買い物支援など既存の多様な移動手段を組み合わせ、より利便性の高い仕組みづくりに努めたい。

問 近隣市町村のNPOや社会福祉協議会による移動支援の取り組みをどう考えているか。

当町でも、こうした先進事例に学び、社協や地域住民と協力して柔軟な「助け合いの移動支援」を立ち上げる考えはあるか。

答 **野村 健康福祉課長**

地域に応じた取り組みが重要であり、当町でも町外への通院・買い物など既存支援では応えきれていない移動ニーズがある。

ボランティアによる移動支援に向け、担い手や実施条件などの検討を始めており、今後は四国運輸局との協議も進めていく。

黒潮町モビリティ　くじらん

持ち上げない介護

介護者の孤立を防ぐ対策を

交流の場や介護講座を検討

問 ノーリフティングケア（持ち上げない介護）の家庭での普及状況と家族の介護実態はどうか。

介護者の孤立を防ぐ交流・相談の場づくりや、専門職による講座の開催、さらに機器活用など早期からの適切な住環境整備に向けた町の考えを問う。

トイレ介助をする高齢者

答 **野村 健康福祉課長**

家庭での介護実態は把握できていないが、介護者の負担軽減に向け、悩みをお互いに話せる交流の場づくりや専門職による住民向け介護講座の実施を検討している。

移乗機器等の導入は、ケアマネジャー等と連携し、介護保険制度を基本に対応しつつ、個別のニーズに合わせた支援に努めていきたい。